愛國婦人會機關

愛國婦人

每月十日廿五日發行

（定價）一枚金六錢　一ヶ月分六錢　三ヶ月分拾八錢　半ヶ年分參拾六錢　壹ヶ年分七拾貳錢　全國無遞送料　郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增

廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地　大日本女學會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

◎戰時に對する婦人の覺悟

國を愛する心は、男子にても女子にても、更に變ることなかるべしと雖も、たゞ其愛國心のむけかたと、その働きに顯はる〻所とに、自ら區別なかるべからず。卽ち男子は男子の範圍に於て、女子は女子の範圍に於て、決して其本分を超えざるやう、注意すべきことにこそあれ。

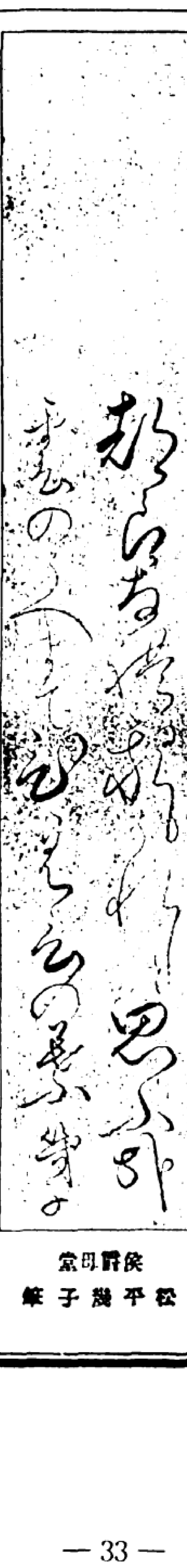
日露の交渉端無くも破裂せり。彼れの亡狀は歐米列强諸國の認むる所、我れ正を以て彼れ不正を討つ、惟ふに必ず全勝の報を得るなるべし。然れども彼の滿洲の曠原に氷の劍を踏み、霰の彈丸を碎きて、死生の間に出入する陸軍の將卒、寒風肌を斬り、荒潮船を搖る旅順浦鹽の海上に國家の大命を擔ひて戰ふ海軍の將校水夫等が辛苦困難は云ふも更なり。其慘憺悽愴たる修羅の街を、夢に現に思ひやりつ〻、心を碎き胸を痛むる、そが家族等の上を思へば、いかに局外の婦女子なりとも、いかでか外に思はるべき。さらば其れらの人のため又は御國に報ずる萬分の一にもと心に念じて、不用の衣服裝飾品の、金にかふべきはかへもすべく、又何かと手工のたしなみなどあらん者は、何まれ力に及ぶ限り勞き勉めて、或ひは軍費に献金もし、或は恤兵部に送りもし、國民一致老幼男女上下貴賤の隔てなく、皆な報恩の志を一にして、我が士氣を皷舞し、我が國威を張り、以て速かに平和の天を望み「より大なる日本」の國民たるに、恥ぢざらんことを期すべし。爾せんにはまづ我が身を强壯にし、我心を固うし、我が一家を安全愉快ならしめて、さて他にも及ぼし、社會にも擴めんことを期すべきにこそあれ。銃は取らずとも銃とる人に劣るまじき心の勇を振はんは今この時の大切なる女子が心がけぞと、深く思ふべきことなりかし。

◎軍資に就いて

畏くも皇室に於かせられては、御所藏の古金地金を軍貨に御出し遊ばさると承る。又德川侯爵（舊水戸家）に於ても、烈公以來襲藏の大判百枚を始め、八九万圓の黃金を出され、十五銀行頭取園田孝吉氏も所藏の金杯金鎖を日本銀行に賣渡されたりと聞く。是れは誠に名案にて多少に拘らず黃金を所藏する人々は是に倣ッて陸續持出したい事である。記者の切に望む所である。左に理財上の理由を述べて參考に供すべし。

紙幣は一片の紙切れに過ぎませんが、金貨の代用として法律の力で通用せしむるものであります。元來紙幣に兌換紙幣と不換紙幣とがありまして、不換紙幣は金銀貨に引替へる用意なしに、單に法律の力で通用さすのであるから、澤山に發行すれば忽ち一圓の紙幣が一圓だけの實價を持たぬ樣になり、經濟財政の上に大弊害を來すものである。今日の日本の紙幣は兌換紙幣である、此兌換紙幣は其發行所に持ッて行きますと、何時でも金貨と交換して呉れるのであります。そこで紙幣發行所では引換へに相當する金貨を積立た上てなければ、一枚の紙幣でも發行する事が出來ぬ譯でありますが、國家の信用が成り立て居り、人民が紙幣を信用する間は、多額に引換請求が起りませんから、空しく巨額の金貨を金庫に積んで置くにも及びません、故に一國內に平生通用される紙幣の高を凡そ測ッて、其高までは引換準備として金銀を積みおかないで紙幣を發行し、其以上には必ず金銀を積み立て置く事になッて居ります。日本では一億二千万圓までは金貨を積み立てないで、公債證書等を保證として、兌換紙幣を日本銀行から發行する事が出來る樣になッて居ります。其以上は金貨を積み置いて、それだけの紙幣を發行するのです。之を正貨準備といひます。若し其以上發行を要するならば、其發行高に對して五分以上の稅を出して發行せねばなりません。これを制限外の發行と申します。此制限外の發行は、止むを得ざる策であッて、固より澤山に發行する譯には參りませぬ。

今日の樣に戰爭になりますと、國家に金が大層入用になりますから、平生よりも多分の紙幣を發行せねばなりませんが、それには正貨の準備がなくては出來ません。それで國中にある黃金を、總て日本銀行に入れて、正貨準備の高を增して、澤山に紙幣を發行し、戰爭の費用に充てたいと云ふのであります。元來日本の舊大名とか富豪の庫中には、今日流通して居らぬ古金貨や裝飾品の黃金が澤山しまッてありませう。又金の指輪などを持ッて居る人々は澤山にありませう。之を日本銀行に賣渡して、正貨準備に供へ、其賣上代にて軍事公債に應じたならば、戰爭が長くつゞいても、優に軍費を支へる事が出來やうと思ひます。尤も、黃金で出來たものでも、美術品とか、歷史上の參考品とか、由緖の有る貴重品などは、やたらに潰しては不利益であるから、熟考を要するとでありませう。併しながら、軍費不足の爲に、戰爭が出來ないといふ、切迫した日には、固より美術品も何も顧みる遑はありませぬ。



侯爵母堂　松平幾子筆

論説

◎女子と國家

文學士　下田次郎

○女子は戰はないか　女子は平和的のものであるから、今日の時に於ても、女子は戰爭して居らぬかといふに、さうでない、大に爲て居る、戰鬪の兵士は則ち女が生んで、國へ出したのである。斯んな雄々しい强い子を産んだ婦人は、鼻が高い、その姉妹も肩身が廣い。昔スパルタの母が我子の出陣に際して「楯を以て還れ、さらずは楯に乘て還れ」といふた樣に「此度の出陣には、卑怯な事をして日本軍の名を汚すな、後は心配するに及ばぬ」といふ樣な健氣な言葉を贐けせられた婦人も多くあらう。男子の決心はそれて出來る。正行の母の奬勵もそれであつた。日本兵士は斯んな母を持ッて居るから、夫れで强いのである。併しこれは其場で勵ました丈では效はない、襁褓の時から吹込んだ敎訓があればこそ、最後の一言が利けるのである。

○戰時の勤め　兵士が出た上で、婦人は何うしたらよいか、何もする事はないかと云ふにそうでない、出て行ッた人の妻や母たるものは、留守を良く守り外に在る人に、內顧の憂なからしむる樣にせねばならぬ。これも平常から心懸けて自活が出來る樣にして置かねばならぬ、又斯る關係のない婦人は傷いた兵士の看護に任ずるもよからうし、物を作ッて出すもよい、留守の人を慰め遺族を扶けるもよからう、こんな事の出來ぬ婦人は益々家事其他の常務に勵んで、家庭や社會の運轉を滑かにして、ゆく事を計らねばならぬ。

○後代の鏡となれ　この寒いのに吹き曝しの甲板の上に立ッて、終夜夜の目も合はさぬ人がある、野上で霜に打たれ、背嚢を枕に寢る人もある。これを思ふと家の內で布團の中にぬく／＼寢るのは勿躰ない譯である。況んや帶が何うとか、肩掛が氣に入らぬとか、いはれた筈でない。平常覺悟のついた人は、こんな時に苦しい、よく事ある時に國家に對する女子の責任を心得て居て、どんな事があッても驚かず、我國固有の雄々しき心を振り立て〻、祖先の婦人にも恥かしからぬ行ひをなし、後代の婦人より手本にされる樣に、やッて行かる〻事を願ひたいのである。

海軍大勝利ときゝて　評議員　中山幸子

かねてよりかくあらむとはしりながらあまりうれしきけふのかちどき

電話番町千三百三十番

◎本號附錄には各府縣會員表を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎近衛師團御慰問

本篇は去にし十六日會長岩倉久子爵夫人が總裁殿下の命により近衛師團を慰問せられたる概況なり。會長の談話により茲にかゝぐ。

◎近衛師團　總裁殿下より御慰問あらせらるゝことは豫て通知がしてございましたから私共が御使として師團司令部に參りました時には高島師團副官が門口まで出迎に來て居られまして直に司令部樓上に導かれました。其處で師團長長谷川中將に遇うて殿下の令旨を傳へました所が中將は有難き御旨を拜して感激の至りに堪へず直に之を各隊に傳へますと申されました。少時御話致して後留守師團長の乃木中將にも面會して御慰問の旨を傳へましたが、いづれも御忙しさうに見えましたから直に辭しました。

◎近衛步兵第一第二旅團　それから高島副官の案内で同步兵第一旅團に到り淺田旅團長に面會して前の如く令旨を傳へましたら、やはり同樣の挨拶がありました。夫から轉じて赤坂の第二旅團に參り渡邊旅團長に逢うて同じく御旨を傳へました。同旅團では萬事準備が整うて居るから暫く話して往けとの事でありましたから同少將と少時戰爭の話など致して歸りました。

◎復命　夫より直に總裁殿下の御殿を伺ひ殿下に御面謁を許されて右の模樣を復命し猶本會の狀況等を詳細申上げました所、誠に御滿足の御樣子でございました。

◎第二師團御慰問

本篇は評議員岡部子爵夫人同松平男爵夫人の兩君が總裁殿下の命に由り去にし十日仙臺第二師團を慰問せられたる概況なり。今岡部子爵夫人より聞得しまゝを左にものす。

◎出張の途中　總裁殿下より第二師團御慰問の御使として私共は本月九日午前八時半上野發の汽車で、仙臺へ出張するとになりました。其日岩倉會長はわざ／＼停車場まで御見送り下さいました。汽車が岩澤驛に着きました時、仙臺から松永旅團長夫人竹内宮城縣支部主事等の方々に出迎はれて、午後六時に仙臺に着き、陸奥の園といふ旅館に投じました。到着後有志婦人が絶えず訪問せられまして、本會の狀況など尋ねられて、夜が更けました。

◎師團及び旅團に向ふ　翌日宮城縣副支部長平岡夏子氏と共に師團司令部に參り、西中將に面會して、御慰問の令旨を傳へました所、同中將は有り難く之を拜して、直ちに各隊に傳ふべき旨を答へられました。夫から旅團に赴き松永少將に面會して、同樣に御旨を傳へました。同少將は大に喜んで遠路態々御慰問の事を深く謝せられ、折柄樓上から見ゆる各隊の出師準備をして居る有樣を一々說明せられ大に優待せられました。

◎陸奥の園に於ける會合　使命を濟しました後に、西師團長夫人松永旅團長夫人始め有志婦人八九名の御催で、私共を旅館の廣間で御招待下さいました。席上同支部の狀況を承り、本部の狀況も御話致し、尚支部の擴張方法等について協議も致し、互に打とけて時の移るのも忘れました。

◎錦戶順子氏　本會の宮城縣支部の發達に與つて力のある方は錦戶順子さんで、丁度此度御面會が出來る事と樂んで居ましたのに、あはれ私共出立前に亡くなられました。誠に殘念な事で、せめて御葬儀になりと列せんものと、其日繰合して參りました。支部長も此方の死去には片腕をとられた思がすると申して居られました。

◎歸京の途中　歸りに汽車が福島縣を通過する際に、同支部長以下數人が福島停車場に出て居られまして、同支部會員表等を差出され、親しく狀況を承りました。

◎復命　歸京の翌日千葉縣津田沼に到り、同地御別邸に御滯在の總裁殿下に謁し詳細言上致しました所、誠に御滿足の御樣子でございました。

子爵夫人　松井正子筆

◎岩倉公爵夫人と坊城伯に告ぐ

陸軍步兵少佐　伊豆凡夫

曰く愛國婦人會、曰く軍人遺族救護義會、其名異なれども、其目的は全く同一にして、軍人の遺族をして窮厄に陷らざらしめんとする一の慈善事業なり。凡夫從來此問題に於て苦慮奔走する者、是まで微意を兩會に盡し、今後亦盡す所あらんと期す。惟憾む兩會同一の目的を有しながら個々別々の行動を取り應募會員をして迷はしめ、其結果兩會互に擴張の妨げを爲さんことを、否な爲しつゝあることを。抑も離るれば弱く合すれば強きは事物の上に於て免るべからざる定法なり。既に其目的同一なる以上は離れて弱からんよりは合して強からんことを兩會に望まざるを得ず。茲に於て凡夫は切に兩會の合併を公爵夫人と伯とに望む。

總て人の起す事業に於ては、其因て來る歷史あり。公爵夫人の此會を起されたるにも、伯の此會を創められたるにも、各尊むべき歷史あるべし。其他兩會の間に於て感情上の關係もあるべく、行き掛りもあるべければ、オイソレ合併といひ難き點も亦免るべからざれども、兩會に於て今後の擴張を計られん爲には兩會分立にては赤十字社の如き盛大（兩會各企望さるゝ）は期し難かるべし。唯合同に於て一の困難は救護義會は男女を論ぜざれども、婦人會は字の如く婦人より成る一事なり、凡夫は此困難を排するに左の方法の一を取られんことを、公爵夫人と伯とに勸告せんと欲す。

其一　男女を問はず總て軍人遺族救助に志ある人を以て、此會を組織する事。

若し愛國婦人會に於て、此組織は素志に背くとて堅く取りて動かれずば、凡夫は左の方法に依るべきことを特に伯に望むなり。

其二　軍人遺族救護義會に於て、此際會員に向て兩會の合併を宣言し、會員は悉く其人の妻女の名に改めしめ、全國婦人の一大慈善會たらしむる事。

此方法は救護義會が大に讓る如きの形跡を見るも抑も軍人遺族救護の事業の如きは凡夫は男子よりは女子の名の下に成るを寧ろ穩當となす。何となれば、男子は血稅の義務を盡し得るも、女子は然らざるを以て婦人會の所謂半襟一掛の費を節して此救護事業に盡すを一層の美とすればなり。凡夫は信ず、慈善心に富み雅量なる救護義會會員諸君は、合併のために己れの名を妻女の名に改むるに吝ならざることを。大主旨既に合併に決せば、合併條項に就て、細部の協商の如きは、兩會の主任に於て易々辨ずべきのみ。公爵夫人、伯、以て如何となす。敬具。

◎露軍の軍艦名

林學士　某君談

露國の軍艦名を我國に譯すると、隨分面白いものがある。先日旅順で大破損を受けたる「ツェザレウヰッチ」と云ふ戰鬪艦は露國皇太子の固有名にて譯せば先づ皇御嗣とでも謂ふべきものだ。是が沈んでは幾ら呑氣の露西亞人でも善い心持はすまい。又巡洋艦に「チャロデェイカ」と云ふのがあるが、是は譯すると巫女と云ふとになる。同じく巡洋艦の「スメルチュ」は涌水の意にて「ネ、トロニ、メニャー」は譯せば「我に觸れるな」と云ふとになる。夫れから二等巡洋艦の「ラズボイニク」は追剝の意味にて名詮自稱なるは可笑しく、仁川にて沈められた「コレーツ」は朝鮮人の意にして如何にも意氣地が無ささうなり。其他戰鬪艦「ポベーダ」は勝利「フラブルイ」は勇氣「ボガツイリ」は英雄にて孰れも岩谷天狗の店頭に並べてありさうなり。又戰鬪艦の「トリー、スウャチーチエリ」は三人僧正にて能狂言にでもありさうらしく、總てが滑稽だ。之に反して我國の軍艦は富士とか八島とか高千穗とか、孰れも莊嚴にして名前だけ聞いても士氣を鼓舞する樣な氣がする。露艦にても少しく軍艦らしき名前のものは「ロシヤ」（露西亞の意）「セバストーポリ」（軍港の名）「ペトロパウロスク」（地名）「アジヤ」（亞細亞）「アフリカ」（亞非利加）「ボヤーリン」（莊嚴の意味）抔だが「ボヤーリン」して居るから追付け日本軍艦のために擊沈めらるであらう。

折にふれて　岐阜　馬淵秀子

幼子もサーベルはきて勇み立ち戰ふる日にぞ爪ごとする

同　大阪　金田鶴枝子

兵と臣とこゝろ一つに向ひなば世におそるべきあだあらめやは

滿洲問題について　福島　三島たま子

春風はのとかに吹けともすほれてとけぬ氷の心にくしも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

史傳

荀灌の勇武

評議員　下田歌子

四時の氣候は順なるをよしとし、人類社會には、各自其所に安んずるを可とす。若し盛夏に氷雹あるは、凶年の兆なり。女子に男子的殊功あるは、國家の不祥なり。然れども、男子若し男子の職を務むること能はざる時は、已む無くも、女子亦これに代らざるべからず。畏けれども、我が神功皇后の、男裝して、外國を征し給ひしは、天皇暴かに陣中に崩ぜさせ給ひし不祥の時にして、ジョアンダークの元帥として、大敵を碎きしも、佛國が危急に瀕せる不祥の時なりき。是故に、女子もとより勇敢なるべしと雖ども、そは其親を勵まし夫を助け、將た其子を敎ふるの道に用ふべく、鋭意精勵、縱令其家長の、軍中に在る間も毫も内顧の慮へあらしめざるべく、別離能く斷腸の涙を抑へて、笑うて其門出を送るに、快からしむるにつとむべきなり。

むかし、支那、晉の代に、荀崧といへる人の女灌は、また不祥の時に遇ひて、希世の勇武才幹をあらはすべく、生れたる人なりき。其父崧、荊州の都督となりて、其城を守りたりしが、端無くも、賊のために圍まれて、糧乏しく、兵弱くまたいかんともすべき樣無かりければ、「暗に紛れて、城をや逃れ出でん。降旗をたてゝ、士卒の無事をや謀らん」と軍議まち／＼なりけるに、都督の愛孃灌といへるは、齡僅かに、十三歲の少女なるに、雄々しくも、父か怯懦のふるまひを、口惜しく思ひ、ある夜一人結束して、駿馬に跨り、兵士が屯の前に乘り出て、「敵は怠れり、今宵の夜討必ず奇功を奏せん。我れと思はん者は、續けや」と言ひさま、かねて、集へ置きたる決死の勇士、十餘人とゝもに、城をこえて、敵陣にかゝれり。さすがに名を惜しむ兵ども、「あれ討たすな」と呼はりて、無二無三に敵陣に突き入りけるに、敵には果して、備へ無かりければ、かゝる小勢とは思ひもかけず馬よ物の具よとひしめく程に、灌は一方の血路を求めて、馬のあがきの續くに任せ、ひた走りに走る、また追ふ者も無かりしかば、遂に志したる、襄城の太守石覽のもとにいたり、速かに援兵を出だされんことを請ひ、又、父崧に代りて書を中郎將周訪に送らんことを請へり。覽も、年少なる灌が、丈夫も及ばぬ勇敢と、機變に應ずる敏智とに感服して、其請のまゝに、書を作り、兵を進めぬ。こゝに於いて、賊は前後に敵を受けてはかなはじとや思ひけん。始めの氣勢に似げも無く、蒼皇、兵を收めて退きしかば、城は幸ひに全き事を得たりとぞ。

我が朝、源爲朝が、十三歲にして、九州を斬り從へしをこそ、希有の武勇と賞するなれ。然るに、灌は女性幼年の身を以て、能く敵を突き策を廻つ。誠に感ずるになほ餘りありと言ふべし。今、淸韓の國民がありさまを見るにつきても、昔はかゝる少女もありけるものをと、轉た感慨にえ耐へずして、聊か其略傳をこゝに記しつ。

童話

反響

巖谷小波閲
高柳淑陸譯

ヴォルグと云ふ子供はまだ物の反響と云ふことを知りませんでしたが、ある日森の中へ行つて大きな聲で、「ホーホップ」と叫びました。すると何處ともなく前面の方から直に「ホーホップ」と叫び返した者がありました。ヴォルグは吃驚して、「何人だ」と云ひますと、又直に、「何人だッ。」「馬鹿ッ。」「馬鹿ッ。」と云ひ返しますから、ヴォルグは怒つて、惡口を云ひますと直に同じ惡口が云ひ返されますので、必然何人か子供が何處にか隱れてゐて云ふのだと思ひましたから、捉へて酷い目に逢はしてやらうと森の中を其處此處と探しましたが、誰一人ゐる者がありません。詮方がないものですから面白くなく家へ歸つて來て、母親にむかつて、その談をして何處かの惡戲兒が惡口を云つたと申しますと、母は笑ひながら「ヴォルグ。お前は今日こそ平生からの自分の惡戲を自分で告げ口をしたのです。お前が森の中で聞いたのは悉くお前の云つた事なのです。お前が萬一優しい言を云つたなら、必然お前も優しい言を聞いたのです、それは反響と云つてお前の云つた言が響くのです。」「ヱッ、母樣さうなんですか。」「あゝさうだとも、今に世間へ出ても、他人がお前にむかつて仕むけることとてもさうです。お前が深切にすれば他人も深切にしてくれます。もし人がお前に不深切なことをしたなら、お前はその人を怨まずに第一に、自分がその人に何か不深切なことでもしやしないかと云ふ事を思はなければなりません。まあ鏡が物の影を寫すと同じことで、怒つて寫せば怒つた處が寫り、笑へば笑つて寫るやうなものです。」惡い事をして善い報を望むのは無理なことです。森の中の反響のやうに自分の云つた言よりは他に返つて來ません。

名譽會員
東伏見宮妃勳一等周子殿下

海軍實話

軍艦の種類及其構造

海軍大尉　某

◎戰艦　軍艦として戰を行ふべからざるなし、されど海軍の主力は戰艦に在り、例之ば陸軍は歩兵、騎兵、砲兵、工兵等の戰鬪縱列、輜重隊、衛生隊の如き後方勤務部隊あれ共、最大戰鬪力は歩兵ならずや、換言すれば海軍の戰艦は陸軍の歩兵の如く、軍の一大元素たるなり。此戰艦の特長は其攻擊力に在りて、最大の巨砲は堅牢なる敵艦又は堡砦を擊破するに在り、數十門の速射砲は敵艦に彈雨を降らし、水面下の水雷發射管は最大なる魚形水雷を發射すべく、艦首の衝角は敵艦の横腹を貫通するに足る、以上は攻擊の勢力なり。防禦の勢力亦頗強にして、艦體の中腹繞らすに十餘寸の甲鐵板を以てし、外巨大の彈丸を防遏し、内機關の要部及彈藥庫を保護し、各巨砲及速射砲も亦強固なる防禦を有す、防禦網は魚形水雷を喰止むるの力ありて、其效力又偉大なり。石炭は極めて多量を貯へ長途の航海に適す、戰艦の大さは近時一萬五千餘噸を算するあるも一萬噸乃至一萬五千噸を以て標準とすべきものゝ如し。速力は大ならずして計畫速力十八節内外を通常とす。我國の富士、八島、敷島、朝日、初瀨、三笠は此種に屬す。戰艦は主戰艦隊を編制して、敵の主戰艦隊に敵對するを努む可く、輕々しく海洋に逍遙して、敵眼に觸れ、我攻擊の時期を失せしむる等の事あるべからず、然れ共一旦敵に向はゝ全力を出して敵を破壞し、再び起つ能はざらしむるに在り。

◎巡洋艦　巡洋艦は猶陸軍の騎兵の如し、然れ共軍艦中其數に於ては最も多數なるを要し、其大小も亦所要に從つて變ず。其特長は速力の優等なるに在り、戰鬪力は遙かに戰艦に劣り、其最大なる大砲も戰艦に在ては其力第二等以下に位し、水雷の裝備も亦然りとす。防禦力に至りては全く戰艦に比すべくもあらずして、或は全く之を缺くあり、巡洋艦は攻擊力として多數の速射砲及魚形水雷を備へ、防禦力は極めて薄弱に或は全然特別防禦裝置を缺くあり。然れ共何れも速力優等にして時に二十三節を出す者あり、淺間、出雲、磐手、常磐、春日、日進等は此種に屬す。

◎水雷驅逐艦　水雷驅逐艦は極めて高速力にして水雷艇を擊破する力を有し、魚形水雷を戰鬪の主力とせる軍艦を云ふ。水雷砲艦は當初英國に於て水雷艇を防遏し、又自ら魚形水雷を放つて敵艦を攻擊する爲製造せられしも、其結果善良ならずして、遂に此種の軍艦をつくり、今日にては專ら此驅逐艦を貴ぶに至れるなり。我國にては頗る多數を有し、速鳥、朝霧、東雲、叢雲、夕霧、雷、電等此種に屬す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

衣服

○衣服の目的　衣服は寒熱雨濕を防ぐ道具なれども、其の主なる目的は寒を防ぐにあり。而して健全強壯なる人には衣服の必要割合に少なしと雖ども、老者・幼者・病者の如き弱き人には其用多く、又勞動者と然らざるものとを比較すれば、勞動者には其の用少なく、靜坐するものに至ッて必要多し。何となれば、强健なる者及び勞動者は氣盛んなるが故に、外部の刺戟に遇ふとも容易に體溫の調節を失はざるに反し、弱き人又は常に靜坐するものは、能く之に耐ふる能はざればなり。先づ寒氣に遇ひて病むは感冒にして、其の最も輕きは俗にいふ鼻感冒に止まると雖も、身體弱き者は其の弱處に及ぼし、遂に餘病を發するに至るべし、即ち呼吸器に弱點あるものは氣管支病より肺病に進み、腸胃の弱き人は腸胃加答兒を起し、腎臟の弱き人は腎臟病を發し、筋肉骨節の弱き人は僂麻質斯を發する等、種々の病を來すなり。是皆身體の溫政を司る機能の弱き爲に外ならざるなり。

○衣服の効用　衣服は體中に發生する所の溫を失はざらしめん爲に着するものにして、溫を生ずるものに非ず、故に酷寒の折は如何程衣服を重ぬるとも、尚寒冷を覺ゆるなり。然らば溫を生ずる原は如何にといふに、食物に在るを以て、衣食は相待ッて離る可からざるものとす。抑吾人の溫政は、先づ飲食物即ち燃料を資りて、化學的作用に由り體溫を發するに基づくものにして、其の發する部分は、主として筋肉及び分泌腺の作用による。即ち筋肉の働きにより體溫を增すことは、誰も實驗する所にして、勞動すれば溫を覺え、靜坐すれば冷を覺ゆ。又分泌腺の體溫を發する證は、空腹なる時に寒冷を覺え、食物を供給して分泌腺の働きを促せば暖く感ずるを以て知るべし。

◎家計財産目錄の必要及其調製法

某子爵夫人談話

○財産調の必要　愛國婦人には每號家計收支の實況を揭げられて、主婦の爲には大に參考となる事と思ひますが、私は此收支の計算の外に主婦の手許に常に財産目錄を作つて置く必要があると思ひます。就いては、其表の調製方法を紙上で示して貰ひたいと思ひます。元來一家の財産は今日では、主人の所有物となつて居ますが、其保管なり整理なりは、やはり主婦の勤むべき事でありまして、一家の財産の有り高を主婦が知らぬ樣な事では、家政は執れません。假令總高は知らないでも、現在自分の眼に見えて居る物品の價位は整然知つて居らねばなりません。且つ人間は何時死ぬるやら知れぬものですから、若し主人か死んだ後に自分の家にあるものが、自分の家のものやら、他人から借りて居るものやら、知れぬ樣では不取締な極みであります。且つ古くから傳はつて居る物は格別、新に購ふたものは大概主婦が眼を通さぬものはない程でありますから、少しく注意したならば、財産目錄を作る事は造作ありません。

○財産調の時期　一家の內には、必ず或る暇な時があります、例へば農家では冬とか春とか、一番暇な時を見計ひて、每年一度又は二度財産目錄を作るのであります。之には勿論其時相應の時價を見積つて、物品に對する價格を記すのであります。常に使用するものは自然少しづゝは損じて往きますから、價ひが減つて來ます。斯樣に一々物に向つて價格を付けて往きますと、自然物品鑑定の術に熟練するやうに、なりますから、品物を購ふ上にも損失を防ぐ利益を得ます。

○購入の時價　財産調をする第一の早道は物品を購ふた時に、必ず臺帳に購入の價格を付して置く事であります。買物の中には直に消耗する物品と容易に消耗しない、又は絕對に消耗しない品物とがありますから、其消耗しない品物は假令ひ些少のものでも、一家の財産を形作て居るのであります。故に主婦たるものは、其責任として購入した物品を直に臺帳に登錄する事を怠つてはなりません。又物が毀れて役に立たぬ樣になりましたならば、臺帳より之を省く事を怠つてはなりません。斯樣にして置けば財産目錄を作る事は造作はありません。

○財産家具の實拂　人の貧富は測られぬもので、今日富んで居つても、何時貧乏になるかも知れません、又官吏などは役の都合で何處へ動くやら知れませんが、かゝる時に財産目錄さへあらば、夫を標準として賣却の物品の價格を定める事も出來ますから、高價のものを二束三文で賣る事も免かれ、又一方には家が能く調うて居る事が知れ破産又は危急の場合でも、落付て整理が出來ます。故に主婦たるものは、平生から其邊の注意が緊要と思ひます。

◎下婢使役の心得

某夫人談話

○使役の目的　家婢使役の目的は家人の職務を助けしむる爲でありますから、之に万事一任してはなりません。故に主婦は之を指揮し監督するは勿論、能ふ限り自から手を下して、其の職務を行はねばなりません。家が豐で澤山の人を使ふとても、衣食住の事を始めとし、大切なる育兒の事に至るまで一切を學識も經驗も少い者に委任するのは間違てあります、此の如き主婦は奢侈と怠惰とのそしりを免れません。

○下婢の選び方　國を治むるは賢良なる宰相を要するが如く、家を治むるにも賢良なる婢僕を要します、即ち其の良否は大に家事に影響するものでありますから、主婦は須く良婢僕を得る事に最も注意せねばなりません。故に之を傭入る時は能く其の性質、習慣、體質、擧止、才能、等を認め尙從前人に役せられた事があれば、其勤め向き等を善く聞尋ねた上、夫々使用の道に從うて適當の者を選ばねばなりません。

○下婢の扱ひ方　婢僕を善く使ふと云ふ事は、容易の事ではありません。諺にも人を使ふは人に使はるゝのであると申しますが、主婦たるものは大に精神を勞するものであります。先づ第一に心掛くべき廉々を申せば、

(一)恩愛を施して之を寬裕に取扱ふこと。

(二)既に傭入れたる上は一家族と見做して之を愛し之を憐むこと。

(三)年若きものは、之に敎育を施さんとの考へを有し、暇ある時は讀書、習字、裁縫等を授くること。

(四)過失あらば、靜に之を戒め之を訓へて自ら其過ちを悟らしむべし、妄に怒を發し之を責め又は之を罵るべからざること。

(五)恩愛と並びて威嚴を保つことに注意し、主婦たる威光を損することなかるべきこと。

(六)恩愛を施すも寬裕に失して、狎れしむべからざること。

(七)主婦は常に其言行を愼み、聊も道理に違はず、其擧止嚴肅にして、人の輕侮を招くことなく、おのづから尊ぶべく、慕ふべき風采を有すること。

(八)恩愛と威嚴とは、人を治むるに缺くべからざるを以て、此二つを兼ね備へ人を懷け、人を制すること。

○職務の配當　數人の下婢を使役する時には、各々其長所に從うて、職務を配當して、よく其本職を守らしめ、例へば割烹の事を掌るもの、薪水の勞を執るもの、裁縫の事を助けるもの、保育の事に與るもの等、家の有樣に從ひて、其の職制を定めて各々分擔を爲さしむる樣にせねばなりません。若しも其の配當が明でない時は、互に其の職を讓り合ひまして、怠慢に流るゝものであります。故に豫め傭入る時其職務の區域を知らしめ、其の職務については、責任を負はす事に致せば、人々皆競うて其の職に盡す事に勉めますから監督上にも、又便利であります。尤も斯く分擔せしめたる上は妄に其の職務外の事を命じてはなりません。

○給料　職務の難易及び、其人物年齡等によりまして、給料にも等差をつけ、傭入の初に於て慥に契約して置かねばなりません。又給料は日を定めて之を與へ、妄りに變更せず、精勤のものには時々褒賞を與へて獎勵し、職務の難易閑忙等十分其の實際を察し、夫れ〳〵勤惰に應じ、與ふるに吝ならぬ樣にせねばなりません。

○休暇　下婢には相當の休暇を與へて、一日の中にても、其の時を定め、一年又は半季に於ては、其の日を定めて、之に當て、各自の用事を辨ぜしむる樣にするが肝要でございます。

二月五日夕方箱崎八幡宮社內の鳩ことごとくいつちへか飛びゆきしまゝかへらざりければ

福岡會員　島常子

箱崎の宮居のみ鳩とびいでゝ
大みいくさの幸まもるらし

稟告

山階宮妃勳二等恒子殿下
本會名譽會員に戴き奉る事となれり此段會員諸君に披露す
明治三十七年二月

愛國婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

山階宮妃殿下

本會名譽會員に戴き奉る事となれり此段會員諸君に披露す

明治三十七年二月

愛國婦人會

愛國婦人會記事

◎近衛師團へ御慰問　總裁閑院宮妃殿下は近衛師團へ御慰問の爲、去にし十六日會長 公爵夫人岩倉久子及び侯爵世嗣夫人德川久子兩氏を差遣されたり。

◎奥村刀自　各地の演說にて咽喉を損したる結果過日大分縣大分町に於て演說後俄然咯血し、一時は氣遣はしき容態なりしも直に大分病院に入り治療を受けたる爲漸次快方に赴き、目下尚同院にて療養中なり。

◎戰死者遺族の慰問　評議員千家男爵夫人清浦男爵夫人及び鄭夫人は旅順海戰の戰死者山中海軍少佐の遺族を慰問し、葬儀の當日は千家男爵夫人森村夫人の外芝區幹事六七名葬儀に列せられたり。

◎評議員柳澤伯爵夫人の逝去　評議員柳澤伯爵夫人柳澤秀子氏は去にし十六日逝去せられたるにつき、本會は弔詞を贈りて哀悼の意を表し、且儀葬の當日は岡部子爵夫人及び鄭夫人（濱子）は本會を代表して會葬せられたり。

◎京都府支部の景況　會員募集の爲、去にし十六日京都市常磐稚幼園に於て演說會を開きたり。聽衆は無慮三百餘名、南條文學博士、梅川惠順、八田一精諸氏の演說あり、何れも聽衆の感動を惹き、頗る盛會なりき。其後引續き市內各處に於て演說會を開きたり。尚同會には大森幹事長以下連署にて各會員に檄文を發し會員の增加を計りたるに僅々四五日間に六七百名の會員を得たりと云ふ。

◎和歌山縣支部　郡市長會議の開かれたるを機として、同支部長伯爵夫人清棲滿子氏は出席の各郡長に向ッて此際一層の盡力あらんとを依賴し且つ一篇の依賴書を印刷して各郡に送付したるよし。

◎岐阜縣支部　同支部にては郡長會議に際し會員數表主旨書、及び檄文等を印刷したるものを各郡長に交付し尚縣下重なる地方にも之を頒布し、大に本會旨趣の普及と會員の增加に力めつゝありと云ふ。

◎富山縣支部　同支部にては支部長自から各郡に出張して本會の旨趣を演說して盛んに會員募集中なりといふ。

◎埼玉縣支部　去にし十四日役員會を開き大に活動を始めたるよし。

◎福井縣支部　同支部にては幹事山田ます子を慰問の爲第三十六聯隊へ派遣したりと云ふ。

◎愛知縣支部　同縣に於ては總裁殿下の御諭旨を拜し、直に幹事會を開き大に會員募集に力めたるに多數の寄附者ありたりと云ふ。

◎栃木縣支部　同支部にては去にし七日臨時幹事會を開き第一着手として、出征者の家族に慰問狀を贈る事を議決し、つゞいて會務擴張の件を協議したるよし。

◎特志の寄附　別項岩本安子氏は海軍將校の夫人なるが夫が外國に滯留し、此度の戰爭に連ならざるを遺憾とし特に本會に寄附されたるよし。

◎愛國心の發露　今回の大戰については、國民は擧國一致の覺悟を以て、或は軍資の充實を計り、或は出征軍人の家族を慰め、或は戰死病死者の遺族を救助するなど、各其分に應じて奉公の誠を盡さんとしつゝあるとなるが、愛國の至情に於て敢て人後に落ちざる吾愛國婦人會員中左の人々はいち早くも多額の金員を寄附して吾會の活動を助けらる、邦家の爲、眞に喜ばしき次第なり。

金三百圓　公爵夫人　岩倉久子
金三百圓　淺草區　山本久米太郎
金百圓　日本橋區　長井くら子
金百圓　麹町區　山本多穗子
金百圓　下谷區　清水梅子
金五拾圓　神田區　清水竹子
金五拾圓　日本橋區　高木菊子
金五拾圓　神田區　四邑節子
金五拾圓　牛込區　石塚於富
金五拾圓　芝區　秋山桂子
金參拾圓　下谷區　內海菊子
金貳拾圓　島根縣　和田さつ子
金百圓　京橋區本願寺令女教會會長　毛利安子
金百圓　深川區　吉田美那
金百圓　赤阪區　岩本安子
金五拾圓　小石川區　清水靜子
金五拾圓　下谷區　清水鐘子
金五拾圓　神田區　三輪初子
金五拾圓　芝區　阿部優子
金五拾圓　侯爵夫人　佐竹靜子
金四拾四圓　神田區　佐々木よし子
金貳拾圓　閑院宮奥　市川初野外七名

◎慰問使日記

前號に報じたる如く、總裁宮殿下より出征軍隊を慰問すべき旨に、評議員子爵夫人松平久子同濱尾作子の兩君を御使ひとして派遣させられ、本紙主幹山澤俊夫も本部主事代理として出發したるが、其日記を左に摘して慰問の詳況を會員に披露す。

〇二月四日午後六時新橋發、總裁宮殿下御名代岩倉會長を始め、評議員、主事等、多數の見送ありき。

〇五日名古屋驛にて成るべく直行すべき旨の電報を汽車中にて受取り、岐阜驛より了承の旨、堀內相談役へ返電す。

神戸より佐世保鎭守府并に長崎支部へ到着の時間を電報す。（岡山にて新任參謀長坂本海軍少將か佐世保に赴任さるゝに車中にて出逢ひ大に便宜を得たり）

下關にて濱尾評議員の知人齋藤警視（下關市警察署長兼水上警察署長）出迎はれ、休息所渡船等の斡旋を取らる（下關より奥村女史へ宛到着時間を報ず）

〇六日午前六時佐世保着。鎭守府より第二艦隊副官舟越少佐吉田副官長崎愛國婦人會支部長荒川菊子、同幹事松本せつ子、同主事、奥村女史中村事務員、佐世保市長渡邊修氏等出迎はれたり。直に腕車にて鎭守府に向ひ、軍港の小蒸滊船にて聯合艦隊旗艦三笠に至り、東鄕司令長官、伊知地艦長島村參謀長列席にて兩慰問使夫人慰問の詞を述べ慰問書を呈し、又支部長は會長代理として慰問書を呈せしに、司令長官は御厚情感謝に堪へず、各艦一同へ御厚情の程を通達すべき旨慇懃に挨拶あり。尚同艦に坐乘し給へる伏見若宮殿下に一同拜謁を給ひ、それより千歳艦にて東伏見宮殿下に出雲艦にて山階宮殿下にいづれも拜謁を了へて、一同池月旅館に投ず。やがて慰問の濟みし旨を本部に打電し、十一時頃朝食を喫したるが、間もなく本部より電報ありて、更に佐世保軍港より出發する陸軍を慰問すべしとの事也。由て直に鎭守府に出向き、同參謀黒井海軍中佐に面會し、軍港に小蒸滊船を出されんとを乞ひたるに、陸軍は既に海軍と共に出發したり、されども通航船一隻明早朝出發するものありとの答なりしかば、其船に慰問書を託して陸軍臨時派遣隊司令官陸軍少將木越安綱氏に送達せられんとを黒井中佐に取扱を依賴し、直に快諾を得たり。午後二時より同市高等小學校に於て、奥村女史遊說演說あり、慰問使兩夫人等出席さる。歸宿後支部長、幹事、市長、新聞記者等種々來訪あり。

夜一時頃更に小倉と大阪とに慰問すべき旨電命に接す。

〇七日朝池月旅館出發、同市要塞砲兵司令部へ慰問す。其次第艦隊慰問の時に同じ。村田司令官慰問書を受けて恭しく朗讀し、懇に謝辭を述べらる。直に停車場に到り奥村女史、中村事務員の大分縣遊說に出立すると共に、乘車し佐賀縣鳥栖驛にて兩人に別る。是より先き昨夜の電命に從ひ小倉第十二師團を慰問するに付き、途次福岡支部に立寄るべき旨有田驛より打電し置きたれば、午後四時半博多驛に着するや、福岡支部長河島樂子同副支部長平岡浪子、幹事山田朔子、鶴田道子、岡村菊子、有川時子、土岐房子、小林房子、會員平岡榮子、土岐主事片山事務員等の諸氏出迎あり。同市松島屋旅館にて暫時休息一同支部に到り縣下の會況を聞き松島屋旅館に歸宿す。

〇八日朝博多第廿四聯隊を慰問す。聯隊長步兵大佐原田輝太郎氏感激殊に深く、自ら先導して豫備後備兵受取の有樣を見せんとて、練兵場に案內し、種々說明ありき。同日は河島支部長、平岡副支部長、鶴田幹事、土岐主事、片山事務員等相伴ひたり。午前十一時博多停車場より乘車、小倉に向ふ。見送の人々出迎ひの時に同じ。其中河島支部長、鶴田幹事、土岐主事、片山事務員同車す。折から兵士の徵集に應ずるもの驛每に乘込み、殊に多數の見送人さへ乘車し、車中一二三の等級を廢し、身動きもならざる儘、小倉停車場に着きたり。第十二師團より、小柳副官出迎ひあり。其他縣參事官、小林直藏、縣屬戶川槌次郞、市長村岡裕章、助役大塚源二郞、諸氏出迎あり。直に師團司令部に於て形の如く慰問を了へぬ。其際列席者は師團長井上光、留守師團長勝田四方藏、大村留守第廿三旅團長隱岐重節、參謀長小原傳の諸氏なりき。小憩の後再び汽車にて門司に着するや、田代市長を始め同地在住の副支部長幹事會員方數十名の出迎あり、一同群芳館に集り、同地會況等種々懇話し、やがて波止場まで一同の見送りを受け、河島支部長、鶴田幹事、土岐、片山兩氏同處まで見送らる。別に用意せられし汽船にて馬關に渡り、川卯旅館に一泊す。

〇九日朝五時五十分發車午後十二時名古屋に着き一泊す。

〇十日十二時の急行汽車にて、名古屋發午後九時三十分新橋に安着す。

◎男子の賛助員　我が會則によれば男子と雖も本會の主旨を賛成し應分の寄附をなしたるものは、賛助會員たる事を得る規定なるが、今回更に男子にして七圓以上寄附したるものには、本會所定の會員徽章を贈與する事に內決したり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世論一斑

◉**戰時の女性** 今日の女性が心掛けは第一、戰爭其ものに向つて弟妹幼兒に物語りを供せんよりは、戰爭の目的に向つて說明せざるべからず。戰爭の目的は平和に在り、平和の關鍵は商業に外ならざるを以て、地理風土の珍しき事物を語り聞かし、汝の父兄が今現に此の如き土地に遠征しつゝあるを示して、以て他日移住雄躍の氣風を作興するに努めざるべからず。第二無道なる露人の野蠻行爲を語り聞かして、幼童の氣準なる復讐心を喚起すが如きを避け、單に我軍の寬容なる處置精神を讚へ、且說明するを要す。第三戰時は喪時に居るが如く國民が擧げて謹愼す可きの時なるが故に、勤儉を勵行するは勿論なれども、勤儉を誤解せる利己は、全社會の各員をして互に相陷らしむ。勤勞と、儉素は人間至高の美德なり、女性の誤りて卑吝となり、利己となるは、恐るべき危險なり、これ亦注意を要する所なり。(二月十八日二六新報)

◉**大に婦人の奮發を望む** 我輩謂へらく男子にして既に國家の爲に其身命を抛つに當ては女子たるもの亦た徒らに深窓の下に安居すべからず。聞くが如くんば婦人の團體にして邦國の用に當らんとの計畫に着手したるものある由なれども此際に於ける特志看護婦の如きは多々益々其用を辨ずるに足ることなれば、假令ひ人の妻たるものも事情の許す限りは身を投じて看護の勞に服することゝし、殊に身を華族の一門に列する婦女子は、平生の飽食暖衣、身に何等の煩ひ無き代りに、斯る時變に際しては一層奮發して身心を勞さんとは、啻に自稱する皇室の藩屏たるの實に背かざるのみならず、亦以て大に病者を慰籍するに足るものあらん。外國婦人すら來つて負傷者を看護せんとす、此際一層の奮發を以て隣邦の好誼に背かさることを期せよ。(二月十六日讀賣新聞)

◉**軍人家族の扶助** 家族扶助の一事は此際最も緊要のことに屬するを信ず、我海陸軍の兵士は重に中流以下の出身にして、殊に豫備後備役に在る者には、一家を經營して妻子を養ふの責を負ふものこそ多ければ、其主人が一朝の動員令に怱ち戎衣を着くるの身と爲るときは、後に殘りし妻子は其日よりして糊口の道を失ひ路頭に迷ふものあらん、人生悲慘の極と云はざる可からず。從軍の義務を負はざる一般人民にして、軍人の家族が斯る慘狀に陷るを傍觀しながら、一臂の力をも添へずとありては、從軍者に對しても國家に對しても何とも申譯なき次第ならずや。軍人家族の救護の必要止む可からざる所以にして、現に愛國婦人會ありと雖も創立年尙ほ淺くして十分の財源を有せざれば、其事業に多きを望む可からず。只此上は各地方の自治區域もしくは便宜の區劃に從ひ、土地の人々相協同して其地の出身に係る軍人の家族が生計の狀態を調査し扶助の方法を立つること肝要なり。(二月十五日時事新報)

◉**授賞方法改良** 軍人遺族扶助料は死亡の狀況に由りて戰功ある死亡者の遺族には特に優遇を與ふるに非ざれば是等の人々の遺族に對し故人生前の戰功に酬いる所は只少額の一時賜金あるのみなりと云ふ、生存と死亡とに由りて其戰功を輕重するを得ざるは勿論なりと雖も同樣の戰功を奏したる死亡者をば生存者よりも薄遇するが如きは處置の當を得たるものと云ふ可からず。若しも之を改めて戰功ある死亡者の遺族に對し同樣の戰功ある生存者に比して一層優遇ならずとも責ては同樣の恩賞を行ふことゝせば大に軍人の勇氣を激勵し、ます〳〵國の爲に一身を輕んずるの美風を養ひ助くるを得べし。(二月十六日時事新報)

◉**戰爭と婦人** 國民の士氣を鼓舞するに男子よりも婦人の力が優つて居る。今日の樣な非常の場合に婦人が形の上に現はれて働くとは極めて必要であるまいか。米西戰爭の時の米國婦人の働き振りは實に目覺ましいものであつた。看護婦を志願したものは幾万人、恤兵獻金などは婦人が奔走して之を募集した、凱旋兵の慰勞會祝勝會なども悉く婦人が發起人になつて催された、實に米國の勝利は確に婦人の働きが助けたと云つて宜しい。吾邦の婦人も今少しく表に立て働いて貰ひたいのである、愛國婦人會が吾婦人の唯一の機關では聊か心細くはあるいか。(二月廿一日萬朝報)

戰報

◎**旅順第一第二海戰**(東鄕聯合艦隊司令長官報告二月十一日午後二時着電)

聯合艦隊は去る六日佐世保を出發したる後、總て豫定の如く行動し、八日正午我驅逐隊は旅順にある敵を攻擊せり。當時敵艦隊の大部分は、旅順港外にありて、我驅逐隊の水雷に掛りしもの少くも、ポルターワ形一隻巡洋艦アスコリド外二隻ありしものと認む。我艦隊は九日午前十時旅順口沖に達し、正午より約四十分間港外に殘留せる敵艦隊を攻擊せり。此攻擊の結果は未だ明瞭ならざるも、敵に少からざる損害を與へ、大に彼れが士氣を沮喪せしめたるものと信ず。敵は漸次港內に逃走するものゝ如し。午後一時戰鬪を止め引上げたり。此攻擊に於ける我艦隊の損害は輕少にして寸毫も戰鬪力を減ぜず。死傷は約五十八名にして、內戰死四名負傷五十四なり。仁川方面に向ひたる分遣艦隊の戰況は既に瓜生司令官より直接電報せるが如し。我驅逐隊は敵の砲火を冒して攻擊を果し、其大部は既に本隊に合せり。艦隊に御乘艦の各殿下は皆御無事なり。我將卒一般の戰鬪に從事せる狀況は頗る沈着にして恰も平常の演習に異ならず。戰鬪後に於ける士氣は益々旺盛にして、若かも動は愈々沈着なり、今朝來風波ありて、艦船間の交通不通なるため、未だ各艦よりの詳報に接せず。不取敢右概況のみ報告す。

◎**仁川港外の海戰**(九日午後仁川港外旗艦浪速に於て瓜生第二艦隊司令官發)

九日正午露國軍艦ワリヤーグ及コレーツの二隻、仁川港より出て來る、我艦隊之を八尾島以西に邀擊す、砲戰三十五分の後、彼は仁川港に退却せり。午後四時三十分コレーツは爆發し、其後ワリヤーグ及び露國汽船スンガリーも破壞沈沒せり。我艦隊は一の死傷者もなく、船體も損害なし、軍氣大に振ふ。

◎**旅順第三回の襲擊**(東鄕聯合艦隊司令長官報告十六日午後十時十分東京着電)

二月十三日驅逐艦の一隊大風雪を侵して旅順口に向ふ。途上各艦を見失ひて、相分離せしも、司令艇速鳥及朝霧のみ旅順口外に達し、朝霧は、十四日午前三時港口を偵察し、盛んに陸岸砲臺哨艇の砲火を被りしにかゝはらず、黑烟を上げ居る一軍艦に對し、水雷を發射し、且つ敵の哨艇を砲擊して、無事歸り來れり。速鳥は同日午前五時旅順港外に達し、港口に近接し、敵の二艦を暗中に發見すると同時に、砲火を受けたるも、直ちに其一軍艦に對し水雷を發射し、其爆發を確認して、無事歸來せり(速鳥、朝霧の勇敢なる襲擊の效果は暗夜の爲之を知るに由なしと雖も、寡くも敵をして益々戰慄せしむるの大功ありたるは、疑なしと認む。

備考 本驅逐隊の司令官は海軍中佐長井群吉氏速鳥艦長は海軍少佐竹內次郎氏にして、朝霧艦長は海軍少佐石川壽次郎氏なり、

◉**露國東洋艦隊表**

戰艦	チエザレウ井チ	一三一一〇	九日旅順にて沈沒
同	レトウ井ザン	一二七〇〇	同
同	ペトロパヴロスク	一〇九六〇	十一日旅順にて破壞
同	セバストポール	一〇九六〇	最初より戰鬪力なし
同	ポルタワ	一〇九六〇	九日旅順にて損傷
二等巡洋	パルラダ	六六三〇	九日旅順にて沈沒
同	ザアナ	六六三〇	九日旅順にて損傷
同	ワリヤグ	六五〇〇	九日仁川にて沈沒
同	アスコルド	六一〇〇	九日旅順にて破壞
三等巡洋	ノーヴヰック	三二〇〇	同
同	バヤリン	三二〇〇	十四日旅順にて破壞
砲艦	ザーギツト	一四五六	十四日水雷にて沈沒
同	コレーツ	一二一三	九日仁川にて沈沒
同	マンヂユール	一四五六	上海にて武裝を解く
戰艦	ボビエダ	一二六七四	旅順に在り
同	ペレスウ井ット	一二六七四	同
甲裝巡洋	バーヤン	七八〇〇	同
同	グロンボイ	一二三三六	浦港に在り
同	ロシヤ	一二一三〇	同
同	リユーリツク	一〇九二三	同
二等巡洋	ボガチール	六六五七	同
甲鐵砲艦	クレミヤスチー	一五〇〇	旅順に在り
同	オトワニジー	一五〇〇	同
砲艦	ラスボインク	一三二九	同
同	ザビヤカ	一二二四	同
同	ギリヤク	九六三	同
同	ボーブル	九五〇	同
同	ブザドニツク	四〇〇	同
同	ガイダマク	四〇〇	同
同	シブーチ	九五〇	營口に在り

◉**日露海軍力比較** 開戰前は日本二十二萬一千三百二十二噸(これは十六節三千噸以上のものゝみを採し日進春日を加ふ)。露國二十萬八千八十六噸(同く十六節三千噸以上のみにて紅海附近に居れる回航中の東洋艦隊をも加ふ)にして、仁川及び旅順に於ける前後四合の海戰にて敵は八萬七千七百五十噸を失ひ十五日以來は十二萬三百三十六噸となる。

雜報

◉**吾會の弔慰金** 或る二三の新聞には、此度の戰死者遺族に對し、吾會より弔慰金を送るについて、將校下士兵卒等に差等を設け、將校に厚く下士以下に薄き額を給する樣報知せしものありしが、吾會は、元來下士卒以下に對して主に救護の途を計るにあるを以て、將校と兵卒との區別なく同樣の取扱ひをなす筈なり。

◉**各府縣會員表** 本號の附錄としたる會員各府縣表は支部より最近の報知により調製せしものなるが、各府縣を通して著しく等差あるを見る。人口に等差あるにあらず、婦人の愛國心に等差なき筈なるが、如此等差を見るは實に奇なる現象と云ふ可きなり。

◉**日進春日兩艦** 我國が新に購入したる二艦は、英伊兩國の士官乘込み、幾多の危險と勞苦とを經て、無事橫須賀に到着せり。東京市は去にし廿日日比谷公園にて盛なる歡迎會を開き、航海員も非常に滿足したる趣なり。殊に我が軍艦か英國皇帝戴冠式に臨むや、マクリン女史始め多數の英國貴婦人歡迎の意を表せし趣きなるが万難を排して我國の爲に二艦を回航したる勇士に向ッて我國婦人が何等歡迎の意思を表示せざりしは、友邦の爲に恥かしき次第ならずや。

◉**日本婦人教育會** 去にし廿日例會を開きたるが、當日は參謀本部の堀內少佐が日露の關係を說いて婦人の覺悟に及ぶとの演題にて、時節柄適切なる演說を爲せり。氏は多忙なるにもかゝはらず特に地圖等を造り、露國か侵害の狀態を說明し日本が開戰せざる可からさる所以を述べ、夫れより婦人の覺悟に及ぼし、子女の教育的方針、及家庭の儉約說等を說き、一同大に感激せり、當日は毛利會長始め、多くの貴婦人出席せられたり。

◉**軍人家族救護會** 陸海軍人家族にして實際家計に困却せる向に對する救濟方法の發達せざるを慨し松方、井上の兩伯、近藤廉平加藤正義等の諸氏首唱者となり此際十分救護の實績を擧ぐるに足るべき有力なる團體を組織し、召集軍隊員をして後顧の虞なからしめんとの計畫を爲し昨今何れも熱心に朝野の紳士紳商間を奔走し居れりと云ふ。

◉**出兵家族慰問婦人會** 去にし十八日麴町區永田町なる大日本婦人教育會に於て、下田歌子松平久子濱尾作子高木こう子山脇房子門野駿子岡山敏子岸濟子等の夫人方集會され、東京市內に於ける出征軍人の留守宅を慰問し、且又其家族中貧困の人々を救助する方法を講ぜんとて、廣く有志婦人に同意を求め、本二十五日更に華族會館に於て有志者大集會を開き、至急實行せんとを協議し賛成の會を設けん希望なりと。其案を聞くに有志婦人一人に付每月金五拾錢以上醵出し、以て慰問救助の費用に充つる積りなりと。尙ほ本日の協議に由り、諸事決定せらるべし。

◉**京濱在留外人の慈善** 東京及び橫濱に在留せる外國人はこのほど橫濱オーリエンタル、ホテルに會し日本軍人及び其家族の扶助方法を協議し。「京濱外人軍事救濟會」といふ團體を組織し苟も本會の注目を惹起したる慘禍に對しては悉く應分の扶助を與ふることゝせんとて、其決議案を提出し滿場異議なく可決し尙ほ委員を選定して實行を託することゝなし散會したり。

◉**令女教會** 京橋區築地本願寺令女教會にては、去にし十六日例會を開き、時局に關し種々評議の上、差向き金百圓を愛國婦人會に寄附し、陸海軍恤兵部へも各々百圓づゝ寄附せられたるよし。

◉**三井家婦人の獻金** 三井男爵夫人苞子氏以下十一人は、金一万圓を海軍恤兵部に寄附したるよし。

◉**各國公使夫人の厚意** 英國公使夫人佛國公使夫人白國公使夫人墺國公使夫人等發企と爲り、閑院宮妃殿下の御贊成を得、來月五日音樂學校に於て音樂會を催し、其の入場料を日本赤十字社に寄附する筈なり。

◉**海軍將校夫人の美擧** 海軍將校夫人高木とみ子瓜生しげ子齋藤はる子等發企人となり、多數將校夫人の贊成を得、出征海軍將卒の勞を慰めん爲金品を募集せらるゝよしにて、現品は成るべく足袋及び靴下類を希望すとの事なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本女學會編纂

婦人寶典

此書は小松宮頼子殿下の總べさせられ女學の通信教授を以て世に名高き大日本女學會に於て多年蒐集されし所の女學に關する和漢洋の諸材料中より最も婦人に適切なる部分を拔萃したるものと新たに名家の起稿されたるものとを一書にまとめ以て婦人座右の良師友たらしめんが爲に編輯されしものにて殊に其學藝諸科目は孰れも專門大家の擔任に係り實に世に類なき婦人寶典なり

◎右の書籍發行につき本會事務所に於て購讀者の便宜を計り左の特別割引を以て愛國婦人讀者本會々員會友並に「をんな」讀者達へ送本方取扱ひ候

和裝　割引代價　金貳圓九拾錢
洋裝　同　金壹圓九拾五錢

但し小包郵便料前揭の通り貳拾錢を要し候尤も東京市内は郵送料を要せず候

和紙摺帙入全五冊（紙數菊版千三百頁）實價金參圓參拾錢
洋紙摺（總クロース製）合本壹冊（紙數同上）實價金貳圓貳拾錢
小包郵送料内地　和裝貳拾錢　洋裝貳拾錢
（何れも總振假名つき）

東京市麴町區下二番町三十七　大日本女學會事務所（電話番町一三三〇）

日露戰報

第壹號二月廿日發行　●本誌には各種の懸賞文募集あり　●毎月三回一日十日廿日發行

詳細●露西亞地圖及寫眞版八頁挿畫數十個挿入

戰は始まれり壯絕快絕の捷報は陸續として來たれり「日露戰報」は左の要領を具へて大いに軍國の氣を皷舞すべく生れたり。讀め!!大いに讀め!

▲通信員、畫工。寫眞師。數名を内外の要地に特派したり迅速。正確、明細の點に於いて遺憾なし即ち最も信憑すべき「正史」也。

▲坪井博士。寺尾博士。三上博士。白鳥博士。萩野博士。中村博士。瀨川博士。其他諸博士の時局に關する執筆寄稿あり。日露戰爭に關する本末前後一切の事件問題を縱横八面に論述す即ち最も有益なる「戰時教育誌」也。

▲戰報。彙報。論說。戰史。文藝。其他の各欄一として火の如く、花の如き文章ならざるはなし、即ち一「戰爭文學」也。

▲全然營利の外に立ち本誌の純益を赤十字社に寄附す　講讀者は間接に博愛報國の陰德を積まるべし。

正價一冊拾錢　郵稅一錢　●六冊前金郵稅共金六十三錢　●十二冊前金郵稅共金一圓二十二錢

發兌　東京神田表神保町　冨山房
賣捌　全國各地書店雜誌店

◉軍醫某の發意に基き製し防寒と防濕を兼て有効顯著也

從軍用

防寒衣

肌衣　顏耳鼻被

特長　一時に全身被服し得る至便新式品。毛布と獸毛と防濕紙料等にて製す。
各師團軍醫より防寒防濕有効との賞賛を受たり
●正價甲八圓五十錢　●乙七圓　●丙五圓五十錢

東京市麴町區隼町廿番地　山本賣店

わぬいきのい

專賣特許山崎貞次郎發明

○和服を仕立るに便利なる機械にして何人にても早くぬいものをなす事を得る良好なる機械なり
○使用解說定價表は郵券二錢御送附次第呈す

販賣店　東京々橋區北槇町九番地（電話本局一三二一〇番）早川商店

紳士貴婦人用

高等香油 チエリーオイル

大八十五錢　中四十五錢　小二十五錢

東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎

●最も束髮用として適當の香油なり

本店卸部　東京日本橋區長谷川町貳番地　美濃磯本店
電話浪花二八九九　電略ミイソ

小賣部
本郷區本郷五丁目十五　電話下谷一四一五　美濃磯本郷支店
淺草諏訪町廿貳　美濃磯淺草支店
芝區新櫻田町九番地　㊮小田商店
牛込神樂坂町二丁目八　㊇伊澤商店
四ツ谷傳馬町二丁目　㊇伊澤支店

院長　醫學博士　榊順次郎（毎日午前診察）
副院長　醫學士　久保德太郎（毎日夕刻診察）

婦人科產科榊病院

東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

耳鼻咽喉科院

院長　ドクトル　山上兼輔　診療毎日午前
四谷區本村町三十七番地　電話番町七三〇（士官學校前）

●水原產科婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

小兒婦人科專門

西川醫院

本所區綠町一丁目卅一番地南わり下水際
電話浪花三千七十三番

◎◎◎最新療法◎◎◎

瘰癧（るいれき）　○切開を要せず○して根治す
○心臟病　○脚氣　專門

神田區三崎町三の一　四通り二十五

千葉内科院

從四位淺田宗伯先生直傳

淺田飴

良藥にして口に甘し

たんせきに
淺田（あさだ）飴（あめ）
空腹（すきはら）にめし

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

日[illegible]の店に販賣す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區銀座四丁目

ツキビジン 毛は油へ

油は毛根の營養を充分ならしめ毛髮の發生を盛にす又髮を黑く艶はしくならしめ、やけど、はげ、其他毛の生すへき處に發毛せさる時此油を用ゆれば直に發毛す

煉油も同樣の効能あり

瓶入香油廿五錢煉油蓋物入十五錢

東京神田久右衛門町電話浪花一一五二番

金城堂 大野金五郎

盃類圖案一班

(金、銀、赤銅白金、白銅、安質母尼杯及木盃製作應用)

●玉田先生畫

山海圖

功勞表彰ノ最モ洪大ナル記賞ニ適用ス

東京市京橋區尾張町二丁目十六、十七、十八、十九番地

時計寶玉類貴金屬美術品及各種銃砲火藥商

天賞堂

(特電話新橋三三三)

天賞堂出張所々在地

●東京市神田 ●長崎臨時 ●名古屋臨時 ●大坂市 ●橫濱市 ●熊本臨時 ●長崎卅 ●小樽臨時

●無料贈呈 天賞堂營業一覽(送料四錢)

特製大袋金五錢景品トシテ廿袋ニ對シ輕銀鍍管一本進呈

めさまし齒磨

東京神田 電話浪花一一五二 大野金城堂

第四卷第二號

二月十五日 發行

をんな

每月一回十五日發行

每號紙數百四十頁

定價十五錢全國無遞送料

本誌の特色

◎本誌の目的は、婦人をして常識に富み、世態に通じ、以て其本分を完うせしめんことを期するに在り。されば其所說、新に流れず、舊に泥まず、一宗一派に偏らず、而も世に阿りて、徒らに俗流の歡心を迎へず。◎本誌は輕佻浮華の弊風を避けんが爲に、表紙口繪など、不要の裝飾を省きて、專ら記事の精選を努む◎本誌に收錄する所は、普通の婦人雜誌に掲載する、文學上家政上の記事のみに止めずして、●科學の大意を掲げて、學理の概念を得しめ、●和漢洋名著の綱要を掲げて、諸書の涉獵に便せしめ、●法制理財等の事を平易にものして、世態に通ぜしむ。◎本誌は、野卑なる言語及び劣等なる戀愛文字を避け、下品なる廣告を掲げず。◎本誌は勤儉貯蓄の美風を獎勵せん爲に每號慈善貯金切手を附して、其模範を示す。◎本誌讀者は「みやび」會員となり、其歌文を本會に送附して名家の批評添削を受くることを得。

發行所 麴町區下二番町三十七 電話番町(一三三〇番) 大日本女學會

三浦秋水著

戰爭と婦人

(本日發行)

今や世界未曾有の大戰爭起り國民の勇躍將士の奮戰は世界の耳目を聳動するは勿論なから殊に日本婦人に於ては一層の任務と士氣を要すべき時なり。婦人は劍を提げて戰はざるも熱誠燃えて爛々たる情熱の戰士に非すや。光榮ある歷史を有する日本婦人は如何の覺悟あり、如何の活動せむと爲す乎。此書勇愛なる婦人の敵愾心を鼓舞し、滿腔の涙をそゝぎたるものなり

●印刷實費金二十錢郵稅金四錢

(四六版百七十頁四號かなつき製本美裝)

發兌元 東京本郷四丁目五番地(電話下谷二〇二九番) 文明堂

諸學校女生徒の寄宿に應し夜間英語を教授す

近藤女子監督家塾

東京小石川區春日町四十三

女生徒募集

高等女子實修學校

東京市牛込區白銀町十九番地

規則入用ノ向ハ郵券二錢ヲ送ラルベシ

◎發賣豫約廣告

赤穗義士銘々傳

信夫恕軒先生講演

全壹冊實費金拾五錢五厘 諸郵券代用

右は本會講談會にて講演せるものにて、今二月終了す。依て一書となし、實費を以て廣く讀者に頒たんとす。然るに申込者多きを以て、更に申込期日を延べ、部數を增刷し、廣く需に應すべし。豫約希望者は三月十日迄に本會事務所へ申込まるべし。期限後は一冊定價金二十五錢を申受くるものとす。凡そ百頁總振假名、文章平易、事實正確、歷史修身の教授用、家庭用として、好參考書たり。

東京麴町區有樂町 東京市役所內

東京市教育會

家事衛生

正四位勳三等醫學博士 三宅秀先生著 (日本女子大學校教科書)

大日本女學會發行

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵稅金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學學長東京帝國大學名譽敎授なる三宅醫學博士が文部省の囑託により講義せられたるものなり。書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて、我國一般の民度に應じ、何れの家にても實行に差支なき樣、懇切に說き示されたる、世に類なき家庭主宰者の寶典なり。

●賣捌所 東京神田區一橋通町七 有斐閣

大和田建樹先生作歌

日露軍歌

田村虎藏先生作曲

菊判形全一冊

●正價金四錢●郵稅四冊まで金二錢なり●見本は小學校の校印あれば無代進呈す●二月十二日發行

發行所東京京橋區南鞘町十八番地香雲堂

賣捌所全國各地書籍雜誌店

賣捌 東京橋柳町 郁文舍　大阪東區南本町四 積文社

愛國婦人「をんな」並に女學講義廣告取扱

神田區千代田町 博報堂 電話本局一四四番

京橋區尾張町 弘報堂 電話新橋八五一番

京橋區南鍛冶町 一星社

日本橋區上槇町 萬年社 電話本局一一一五

江見水蔭君監督

戰爭小說

編輯主任大澤天仙君○繪畫主任山中古洞君

世界未曾有の大戰爭

氣を振起國民の敵愾心を愉快なる戰爭文學に絕…一讀軍隊…

第一篇 動員令 江見水蔭君著 二月十五日發行

第二篇 日進春日 江見水蔭君著 二月二十日發行

第三篇 大海戰 江見水蔭君著 二月廿八日發行

第四篇以下毎週逐次發行

●定價每冊金十錢(郵稅二錢)

發行所 東京京橋區柳町五番地 郁文舍

賣捌所 全國各書肆 大阪東區南本町四丁目 積文社

明治三十七年二月二十五日發行(每月十日廿五日二回)

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 大日本女學會內

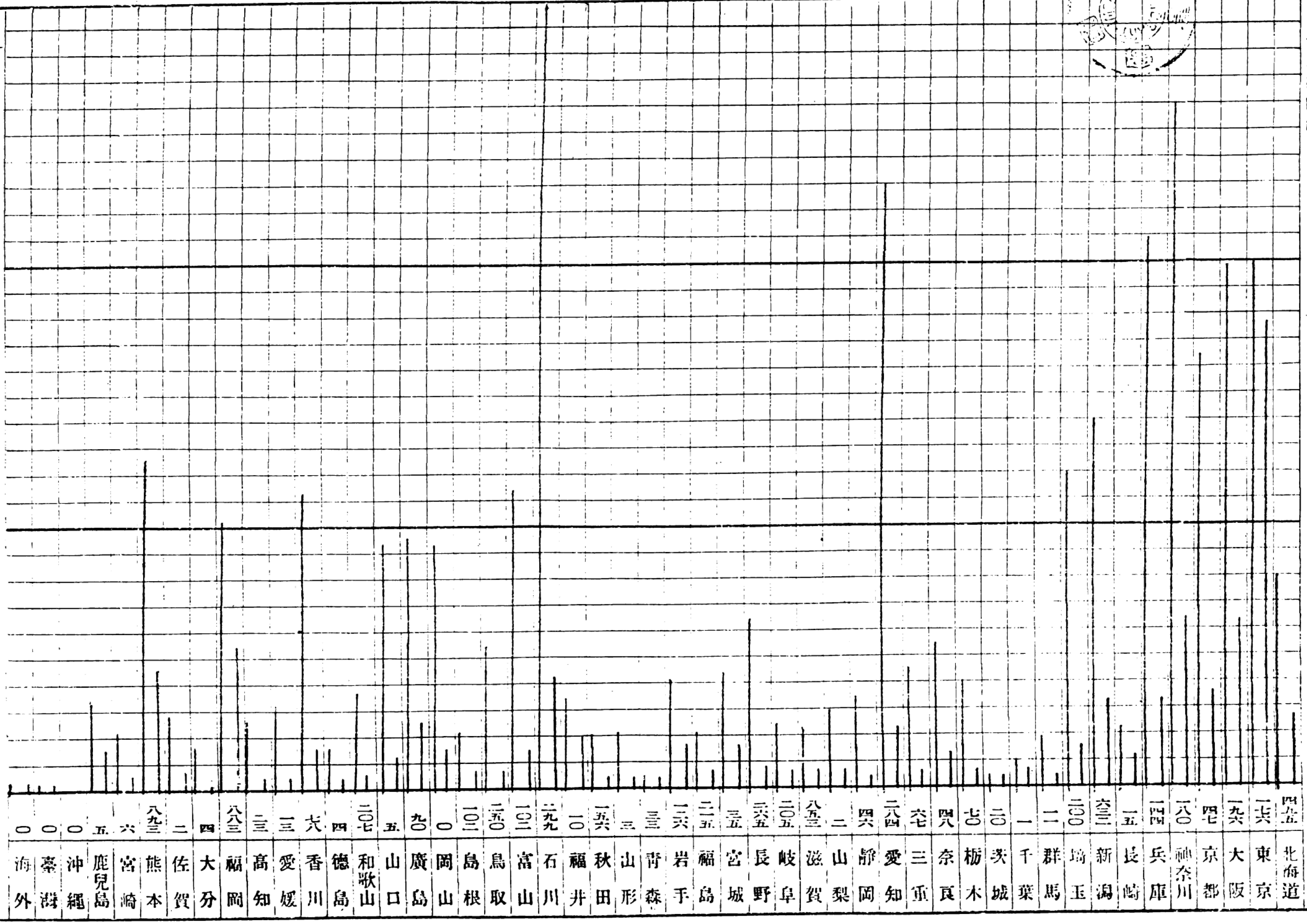
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地株式會社秀英舍第一工場

明治三十七年二月廿五日發行（毎月十日、廿五日二回）
明治三十九年三月廿七日第三種郵便物認可

愛國婦人第四十八號附錄

愛國婦人會員統計表

明治三十七年一月末日調



備考

赤●ハ特別會員靑●ハ通常會員トシ一區畫ハ百名ヲ示ス日本數字ハ贊助員トス表中人員ハ各支部共增加シアルモ月報未着ニ付六月半年報ニ依ルモノアリ現ニ福井愛媛ノ如キ已ニ千名以上ニ達セリ石川ハ通常會員四千百何名ナルモ紙幅限リアリ略ス

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會內愛國婦人發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會雜誌

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN